

笠間市議会清掃施設整備等調査特別委員会記録（第43回）

令和7年8月21日 午後1時24分開会

出席委員

委員長	西山 猛 君
副委員長	益子 康子 君
委員	酒井 正輝 君
〃	河原井 信之 君
〃	鈴木 宏治 君
〃	川村 和夫 君
〃	坂本 奈央子 君
〃	安見 貴志 君
〃	内桶 克之 君
〃	田村 幸子 君
〃	林田 美代子 君
〃	田村 泰之 君
〃	石井 栄 君
〃	飯田 正憲 君
〃	石松 俊雄 君
〃	大貫 千尋 君
〃	小藺江 一三 君
〃	大関 久義 君
〃	石崎 勝三 君
〃	畑岡 洋二 君

欠席委員

委員	長谷川 愛子 君
〃	村上 寿之 君

出席説明員

副市長	近藤 慶一 君
環境推進部長	小里 貴樹 君
資源循環課長	成田 崇 君
資源循環課長補佐	友部 光治 君

資源循環課 G 長	水越 禎成 君
資源循環課 係 長	中村 有美子 君
資源循環課 係 長	埴 諭 君
資源循環課 主 事	藤井 二十 君

出席議会事務局職員

議会事務局 長	山田 正巳
議会事務局 次 長	石井 謙
次 長 補 佐	鶴田 貴子
主 査	上馬 健介
係 長	神長 利久

議 事 日 程

令和 7 年 8 月 2 1 日（木曜日）

午後 1 時 2 4 分開会

- 1 開会
 - 2 案件
 - (1) 提出した要望書の報告について
 - (2) ゆかいふれあいセンターについて
 - (3) その他
-

午後 1 時 2 4 分開会

○西山委員長 委員の皆様にはお忙しい中、第 43 回清掃施設整備等調査特別委員会に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

それでは早速会議に入りますのでよろしくお願いいたします。

ただいまの出席委員は 20 名であります。欠席委員は、長谷川愛子君、村上寿之君であります。

定足数に達しておりますのでただいまから会議を開きます。

また、議会事務局より局長、次長、次長補佐、主査、係長が出席しております。会議の記録は次長補佐をお願いいたします。

○西山委員長 それでは、早速本日の案件に入りたいと思います。

初めに（1）として、提出しました要望書の報告についてでございます。この件は、前回 7 月 30 日の委員会において、皆様からの意見を集約し作成をいたしました要望書について、委員会終了後に執行部に提出したものであります。正副委員長で提出してきました。

この件につきましては、執行部は副市長に代表して対応して頂きました。

報告をいたします。

要望書を受け取りました際、副市長からのこちらの要望に対する報告というのが正しいかどうか分かりませんが、川崎重工業の案内で現況施設の説明を受けた際に、規模縮小はできないのかと副市長が川崎重工業の担当者に尋ねたところ、それはできませんという回答を頂いたということを、要望書提出段階で、我々正副委員長に経過報告として副市長から頂きました。この件も踏まえて皆様方の御意見を頂きたいと思います。

暫時休憩いたします。

午後 1 時 2 7 分休憩

午後 2 時 1 0 分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

休憩中に皆様方から貴重な御意見を頂きました。取りまとめますと、9月定例会に補正予算として上程予定の調査費についての審議を当委員会で行えないかという御意見がありました。これは可能であるということであります。明日、議会運営委員会がありますので、議会運営委員会の中で、方向性や手順をきちんと詰めておきたいと思います。その中で付託されたと仮定します。その中で、先ほど皆さんから御意見がいろいろありましたが、それを執行部から答弁を求めるといような方向でいきたいと思います。もちろん全員参加の特別委員会ですから漏れなくということ。

このような方向でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 御異議ございませんか。

〔「一つ確認したい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 安見委員どうぞ。

○安見貴志委員 今日の出だしは要望書の報告から始まって、いきなりどうしますかと振られたのですが、要望書で言ってる内容は、延命化の予算立てと同時進行して新設の建て替え予算についても検討してという内容を言ったじゃないですか。その中で、副市長が要望書を渡すときに言われた言葉が今日は話題になって、ああでもないこうでもないという話になったと思うのです。その上で、今日の次第を見ると執行部は待機しておるようです。実際に待機するのを見てます。そうすると、今日幾つかこの場で執行部に同席してもらって確認して解決できてしまうことがあるんじゃないか思います。その上で、今後その予算が特別委員会に付託されたとしても実のある審議ができるように考えるのですが、待機させているのであれば、待機してる執行部をここに呼んで頂くということではできませんか。要望として上げたい。

○西山委員長 可能です。そのための待機です。

暫時休憩いたします。

午後 2 時 1 2 分休憩

午後 2 時 1 3 分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

執行部の出席を求めました。副市長以下関係部課長が出席しております。

副市長市長から一言御挨拶頂きまして進めたいと思います。

副市長。

○近藤副市長 委員の皆様におかれましては、清掃施設の整備に関しまして、いろいろ御意見を頂きありがとうございます。限られた時間の中で、環境センターをどのように整備していくべきなのか、皆様方の意見も十分に反映しながら進めていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○西山委員長 ありがとうございました。

それでは安見委員どうぞ。

○安見貴志委員 冒頭、今日の委員会の始まりで、いろいろと要望書の施行に関しての経緯の報告があったわけですが、この経緯の報告があった上で、各委員の皆さんからいろいろな疑問点の質問があったかと思います。なので、執行部の方が顔を揃えて頂いたところである程度疑問点を解決できる場所はして頂きたいと思います。その中で上がったことを私のほうからお伺いします。要望書の施行させてもらったときに副市長のほうから今のごみ焼却炉のトン数の縮小云々について、できないよというようなところのお話があったという報告を受けました。その回答の内容だったり詳細について、副市長のほうから説明を頂ければと思います。よろしくお願いします。

○西山委員長 副市長。

○近藤副市長 いわゆるダウンサイジングということなのですが、今あるものが 105 トン対応の煙突だったり、建物だったり、その中に機械が入ってるという中で、規模を小さくするというのはなかなか難しいというお話はさせて頂きました。

○西山委員長 安見委員。

○安見貴志委員 そうすると、当初、委員会の中で説明されてきた延命化の路線で今後検討していくに当たって、現状を知った上で詳細を決めていくというところの前に、変な話世間話の延長のような形でサイズの変更できますか、いやできませんという意味合いのものなのか。ある程度積み重ねがあった上で、今のものをサイズが小さくできますか、いやできませんというところなのか。その辺の意味合いは、副市長いかがでしょうか。

○西山委員長 副市長。

○近藤副市長 今現在、あそこの環境センターにつきましては、外部から目視で状況を確認

認をして、何とかなるのじゃないか、大規模改修すればもたせることができるのじゃないかという判断はしてますけども、詳細な健全度を調査したわけではありませんので、延命化自体は、きちんとした健全度調査をかけてやっていかないと、やれるかやれないかも含めて、そういう調査をしていく必要があるということです。サイズを小さくするという話はその次の段階の話になるのじゃないかなと思っています。

○西山委員長 安見委員どうぞ。

○安見貴志委員 であれば、やはり延命化という路線に沿って詳細を調査した上で、今後方針を出していくというのが多分今のお話の内容だと思いますので、先ほどいろいろ休憩中に各委員さんから出た疑問を、この際、聞けるべきところは聞いて頂いて今後の予算措置のたたき台なり参考にして頂ければと思います。

私のほうはこれで結構です。

○西山委員長 ほか、ありませんか。

石松委員どうぞ。

○石松俊雄委員 延命化の話じゃない部分で、そもそも要望書の内容に対する回答というのは頂けないのでしょうか。要するに、高効率ボイラー発電施設を含めた新設建て替えについても同時進行的に調査をやってくださいというのが要望の内容だったのですが、それはやって頂けるのかどうか。回答は頂けないのでしょうか。

○西山委員長 執行部に聞きますか。

副市長代表して、副市長どうぞ。

○近藤副市長 7月30日の要望書に対する回答ということになるかと思いますが、要望書の中に、同時進行的に詳細なコストを算出し再度定量評価等を行うことを要望しますというふうに記載されております。詳細なコスト算出ということになりますと、本当に詳細なものを出すとすれば、それこそ設計を組むというようなことにまでなりまして、お金もかかるでしょうし時間もかかるかと思いますが。うちで先だって出させて頂きました大規模改修への切替えのときには、コストについては、新しい事例を拾ってサイズのにも似たようなサイズのものと比較してコストを算出しておるところです。年々新しいところもできてまいりますので、資料としてはもっと新しいものが出るかもしれませんので、そういう意味では、常日頃からコストを意識しながら、進めていければと思っております。また先ほど、ダウンサイジングの話にもなりますけれども、ダウンサイジングをすることは、できないことではないみたいですが、それによって、かなりのコストがかかっていくというようなお話も、漏れ聞かれるところでもありますので、そういうものも含めて、コスト意識をしっかりとって進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「質問に対する答えになっていない」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午後 2 時 2 3 分休憩

午後 2 時 4 2 分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 まず課長さんに確認なのですが、休憩中に石松委員のほうからも質問がありました。私も同じ気持ちなのですが、行政の進め方として、先ほどの説明を聞いてますと、取りあえず 9 月の定例会において、大規模改修に向けた調査費の予算を出しますということで、調査費の内容は、第三者のコンサルタントに対する大規模改修に関する現状認識の調査の費用なのです。また、調査結果が出た時点で、70 トンクラスの高効率の発電の予算もこのぐらいかかりますという数字は、最新事例をもとに出せます。だから、比較検討もできるでしょうということによろしいのですか。

○西山委員長 課長答弁。

○成田資源循環課長 今の御意見、お話のとおりです。

一点だけ、調査はあくまで調査で、駄目とか悪いとかの結果が出てくるだけでございますので、それだけでは工事費までにはつながりませんので、今回補正のほうに上げて頂く費用には、調査してその結果を踏まえた改修範囲の検討と工事費の算出までを含めたもので出していこうと思っております。

以上でございます。

○西山委員長 大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 調査が終わりました。大規模改修をするのにこのぐらいの予算がかかりますという数字が出た時点では、最近の工事事例をもとに物価スライドを計算した中で 70 トンクラスの新設の場合もこのぐらいの予算ですよというのは、ぴったりの数字かどうかはともかくとしても正確に近い数字は出せますよということによろしいですね。

○西山委員長 課長答弁。

○成田資源循環課長 おっしゃるとおり詳細と言われますとちょっと難しいとは思いますが、今おっしゃられたようなレベルの水準のものであれば、可能かというふうには思っております。

以上でございます。

○西山委員長 河原井委員どうぞ。

○河原井信之委員 前回の資源循環課から頂いた資料の中の専門家の意見の中で、県が策定した広域化計画によれば、本市が属する広域化ブロック、水戸市、ひたちなか市、笠間市、東海村は 2050 年代、あと 20 年ぐらいですけれども、その頃には集約化の可能性が示唆されているというふうにありますけれども、水戸市なんかも最近つくりましたけれども、集約化があったとき、25 年後にはどのような計画を茨城県は考えているのかという

のは大体分かりますか。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 茨城県の広域化の計画でございますけれども、広域化をこの枠組みで、例えば笠間市、水戸市、ひたちなか市、東海村あたりが入ってたかと思うのですけれども、この枠組みで広域化をしますというような計画ではないというふうに私は認識してございます。今、県のほうで示している計画は、隣接のエリアのこの枠組みであれば持っている施設がそれぞれ大規模改修時期あるいは建て替えの時期を迎えるのでこのタイミングだったら広域化の協議ができるのじゃないかというものを示したものだということに理解してございます。専門家の方の御意見にもございましたとおり、うちの今属しているブロックですと 2050 年代 55 年頃がその時期じゃないかというふうに言われている中で、今回延命化を図った場合、ほぼ近い年数が延命化でつなぐことになろうかなと思っております。当然その直前で協議するものではないので、仮にこの延命化がこのまま進んでいった場合ですけれども、この間に、そういったほかの自治体との連携の可能性というのを、時間をかけて協議なり検討なりをしていく必要もあるというふうに思っています、2050 年代にこうだという計画は明確なものは持ってございません。

以上でございます。

○西山委員長 河原井委員。

○河原井信之委員 その頃が明確に集約される時期なのだとということで、それまでは不透明なので、とにかく延命化でできるだけコストを抑えたほうが良いというのは、すごく理解できるのですが、先ほど副市長のほうで同じ規模じゃないとできないの的な話があったようですけれども、それは国からの補助金の関係でそういうふうになるのかと思います。焼却炉の基幹的設備の改良をする、要するに延命化をするときに国から出る交付金、例えば循環型社会形成交付金だとかが 3 分の 1 とか 2 分の 1 出ますけれども、それに対応するためには同規模じゃないといけない。例えば高効率にしちゃうと全く新規のものになってしまいますから、側は一緒でも中を換えてしまえば新規のものということになることで、基幹的な設備改良に当たらないということから、そういうことが言われたのかなというふうに思うのです。補助金も調べてみると、人口減少だとかそういった地域の社会的なことを踏まえてやれば、多少ダウンサイジングしても同じ交付金がおけるといのは確認しているので、そこら辺も踏まえて、しっかりとコストをできるだけ抑制するような考えで検討して頂きたいと思います。

答弁は大丈夫です。

○西山委員長 ほかにありませんか。

酒井委員。

○酒井正輝委員 今の話で私も答弁求めたいのです。確認なのですが、サイズを小さくすればお金がかかっちゃうかもしれない。今、副市長の説明だとお金がかかっちゃうかも

しれない。でも、ランニングコストが減るかもしれないじゃないですか。総じて、サイズを小さくした方が安くなるかもしれないですという可能性はあると思うのです。そこは、調査するしないで言うのと、予定はどうなっているのですかというのを答弁頂きたい。

○西山委員長 課長、答弁。

○成田資源循環課長 技術的なことを申し上げますと、恐らくどんな形にせよ、大規模に改良すればダウンサイジングあるいは、アップというのものもしかしたらあり得るのかもしれないのですけれども、いずれにしても、今回調査をして延命化の範囲をしていく中で、おっしゃられるように河原井委員のほうですけれども、人口減少とかで極端にごみ量が減ったりしますとその規模感に合わせて、2炉を1炉にしてみたりとか、ダウンサイジングを試みたりとかという事例は、恐らくあったと思っています。ただそこが少し交付金のいやらしいところなのですけれども、余り規模が大きくなり過ぎるとそれは新設というふうに見られますので、交付金の種類としては多分新設でとっていくような形になりますし、かえってそこまで費用が上がってくると、むしろ新設のほう有效果があるのじゃないかという話も出てきます。なので、酒井議員のおっしゃるそのダウンサイジングの検討を運営効率その辺も含めて検討するのかわわれれば、今回の検討の中にその領域というのも入ってくるとしています。

○西山委員長 ほかありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 要望書の報告についてということで、皆さんに議論をして頂きました。執行部にも出席をして頂きまして、一定の答弁を頂きました。その上で今後進めていくということで、よろしいですか。御理解の上で。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 ではそのようにします。

ここで御退席でよろしいですか。何かあれば。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 なければ、執行部は退席をお願いします。

御苦労さまでした。

〔執行部退席〕

○西山委員長 続けて（２）ゆかいふれあいセンターについてでございますが、この件につきましては、協議事項として次回以降にまたスライドさせたいと思います。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 次に（３）に入ります。

その他、ございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 以上で本日予定しておりました案件には終了いたしました。

次に、次回の開催日程協議すべき事項についてまとめたいと思いますので、御意見があればお願いいたします。

開催日程及び協議すべき事項については、正副委員長と事務方に預けて頂いてよろしいですか。整理してみたいと思いますので、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 ありがとうございます。

それではそのように決したいと思います。よろしくお願いいたします。

以上で第43回清掃施設整備等調査特別委員会を終了いたします。

長時間にわたり御苦労さまでした。

午後2時56分閉会